

令和3年度 第1回 大阪府立桃谷高等学校 学校運営協議会 議事録

1. 会議日 令和3年7月16日（金） ※意見書の返送期日

2. 場所 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、令和3年度第1回会議を書面開催とした。
そのため、7/5（月）に郵送および電子メールで会議資料を発送し、意見書による意見聴取とした。

3. 出席者の氏名（委員および本校関係者）

梅田 和子 委員（近畿大学特任教授）	大西 俊猛（多部制単位制Ⅰ・Ⅱ部 校長）
大西 啓嗣 委員（大阪市立天王寺中学校長）	中濱 秀徳（定時制（夜間）Ⅲ部 准校長）
山口 照美 委員（大阪市生野区長）	伊藤 範子（通信制の課程 准校長）
加藤 曜子 委員（流通科学大学名誉教授）	森川 桂一（事務部長）
篠崎 静夫 委員（本校同窓会長）	
安東 沙織 委員（本校PTA役員）	（事務局）
	松本 厚史（多部制単位制Ⅰ・Ⅱ部 教頭）
	他、各課程・部の教頭および教職員数名

4. 議題

- (1) 「令和3年度 各課程・各部の取組み」について
- (2) 「令和4年度使用教科用図書選定理由書」（各課程・各部）について
- (3) その他ご意見、ご要望

5. 協議内容（意見聴取の内容）

- (1) 「令和3年度 各課程・各部の取組み」について

【安東委員】

- ・特に意見なし

【大西委員】

- ・コロナ禍による様々な制約があるなか、生徒の学びに向かう意欲の醸成に向けて、様々な取組計画を策定していただいていると感じる。
- ・アンケート項目のなかで、保護者への進路情報周知の項目などが昨年度大きく落ち込んでいる点などについて、検証と改善をお願いします。

《中濱准校長》

令和2年度の落ち込みの要因は次の2点

・新型コロナウイルスの影響で保護者向け進路説明会が開催できず、個別の呼び出しもはばかれる状況であったため、保護者への情報提供が不十分であった。

・回答数そのものが少なかったため個人の印象が数字に反映されやすい状況であった。

とはいえ、令和1年度は肯定的評価が100%であったことから、全体への説明や個別対応の重要性が再認識されたと考える。

今年度は、次の3点から数値の改善が期待できる。

・昨年度は年度当初の臨時休業により発行できていなかった進路だよりが、今年度は発行できている。

・保護者説明会が開催できた。

・応募前職場見学等について保護者との連携が昨年後に比べてとれている。

【加藤委員】

(定時制)

・生徒向け学校教育自己診断における「保健室など居場所」の肯定率を80%にする。

(H30～R2はほぼ同じなので、どのような工夫を考えられているのか知りたいです。)

《中濱准校長》

[保健室について]

・R2年度当初に養護教諭が異動したこともあり、それまで保健室を居場所としていた在校生たちは戸惑ったと思います。学校の中で保健室は、「自分が受け入れられている」「心が落ち着く」と感じられ、さらに自分のことについて振り返ったり考えたりすることができる場所、自分のよいところ、悪いところをありのまま認めることができる場所であればよいと思っています。

・生徒との信頼関係を築くことができるよう、話しやすい雰囲気づくりや生徒に寄り添う姿勢、保健室以外での声掛けを心がけています。

・ただ、保健室が単に甘えることができる場所になってはいけけないので、他の教職員の協力を得ながら対応するとともに、他の教職員ともちよつとした情報共有などを通じて信頼関係を築くように努力しています。

[居場所事業(かめカフェ)について]

・感染症対策を重点的に実施しつつ利用生徒の増加に繋がるような工夫を行っています。生涯学習生徒も一定数利用しているため、安心・安全に利用できる場になるよう FAIR ROAD さんにも協力をいただいています。

・感染症対策については、三密を避けるための一度に入室できる生徒数の制限(6名以下)、定期的な換気、入室時の手指消毒、机や椅子の消毒、向かい合って座ることの禁止、部屋での飲食禁止などを行っています。

・利用生徒の増加に繋がる工夫としては、飲食は禁止ですが、飲み物は未開封のまま、お菓子は小袋のまま提供しています。そのため、部屋には入らずともお菓子をもらいに來る生徒もおり、その際にはかめカフェスタッフと会話を交わしており、様々な制約が解除されたときの利用しやすさに繋がると考えます。また、普段利用している生徒は、引き続き安心して利用しているため、肯定率が下がっていないと考えます。

- ・SSW、SCの2名増加につきましては、前年度SSWは月2～3回を月6回に、SCは月一回を月2回という意味にとらえてよろしいのでしょうか？
- SCと保健室との連携はありますでしょうか？
- 利用者はどのような状態で利用されているのでしょうか？

《大西校長》

- ①SSWは、昨年度まで校内予算(校長マネジメント経費)で、年10回でしたが、本年度は府予算でさらに年9回分の配当がつき合計19回の訪問となりました。結果、月に2回の相談日ができるようになりました(SSWは同じ方が1名来られています)。SCについては、前年度と同様、府からの配当年12回に加え、校内校長マネジメント経費で10回分を手当てし、合計22回の相談日が可能となりました(SCも同じ方1名が来校)。
- ②校内連携については、ケース会議等で保健室のみならずSC、SSW、教育相談係など事例に応じて組織的な対応をしています。
- ③利用者は、個別面談など生徒だけでなく、保護者ともカウンセリング等を行っています。

《中濱准校長》

[SSW、SCの時間数について]

・今年度も昨年度と同じく、SSWは年間192時間(6時間×32日)、SCは年間10日来ていただいております。相談件数はどちらも年々増加していますが、今年度SSWの予算が削減されたため、不足分は校長マネジメント予算で補い、昨年度と同じだけの時間数を確保できました。

[SCと保健室との連携について]

・出勤後、用務が済み、時間が空いたら保健室へ来て生徒に関する情報共有を行っています。面談のない休み時間には保健室に待機し、入室した生徒と話すなど関わりを持つようにしています。話の流れで面談になるときもありますが、今のところ、ここでの会話からSCとの個別相談へ発展したケースはありませんが、生徒にとっては個別に愚痴を話すことができるので、SCを知ってもらい良い機会になっています。

(通信制)

- ・年令の幅も多く、特に20才代のニーズの高いことに、通信制の役割の高さを感じています。
- ・「生徒層の変化に対応する教育システム」について、さらに、発展させていただきたいと思います。
- ・不登校だった子の割合が高い傾向については、再びドロップアウトしない為の工夫とかを、そして、個別のご指導体制強化もお願いしたいところです。進学率も高く、専門学校、職業へと選択幅は広く、新しい未来が開かれていることと思います。進学後のフォローはあるのでしょうか？

《伊藤准校長》

・不登校だった生徒にとって、毎日、通学しなくてよい通信制のシステムは安心できるものになっていると思います。学校に行かないことがマイナスにカウントされてしまい、それが増加していくというのが普通の学校ですが、通信制は一日でも学校へ行くとそれがプラスにカウントされます。そのため科目ごとにレポートの提出枚数やスクーリングの出席回数などが違っており、複雑なシステムになっています。「再びドロップアウトしない為の工夫」とは、まさにそのシステムを早い段階でどう理解してもらうか、という点にかかっており、入学直後のオリエンテーションや「学習のしおり」などで説明しています。また、質問会や個人面談なども実施していますが、そういった機会を活用できない生徒にどうアプローチしていくか、大きな課題です。

・進学後のフォローについてですが、質問に来た卒業生に対して個別に対応することはありますが、特にフォローの体制はありません。本校には、不登校で基礎学力に不安のある生徒もいる反面、いわゆる進学校から転入学してくる生徒もあり、生徒の学力差はかなり大きいです。そのため、ケースバイケースでの対応が基本となります。

【篠崎委員】

(Ⅰ・Ⅱ部)

・廃部を控えた中で、生徒会、部活動など自主活動の工夫と充実を図る。二年後の閉校はすぐきます。今いる在校生全員の卒業を目指してください。

(Ⅲ部)

・将来の自立や社会参加、進路実現につながるように、生徒に寄り添い、支援指導を充実させる支援体制の確立。

(通信制)

・府内唯一の公立高校通信制生徒の実態を把握。確かな学力、スクーリング見学を定例化するとともに、レポート添削の在り方について検討して下さい。

《伊藤准校長》

・7月の若桃塾(本校の若手教員の勉強会)で、「レポート添削研修」を実施し、ベテラン教員2名に講演してもらいました。好評でしたので第2弾を検討しています。一昨年度から実施している「公開スクーリング」は、時間の制約があり参加しにくい、という意見が多かったため、今年度は全教員が参加できるように生徒の登校しない日に設定してみようと考えています。

【梅田委員】

◎Ⅰ・Ⅱ部について

一人でも多くの生徒が卒業できるよう、家庭との連携、「わかる授業」の実現は欠かせないと思います。引き続き、よろしくお願いします。また、SSWが2名配置になり、より支援体制が整備され、良かったと思います。

◎Ⅲ部について

・授業見学用紙を授業スタンダードに内容に沿ったものに変更されたことはとても良いと思います。
・生徒支援委員会作成の資料は、外部から学校を支援している方も支援の全容が分かり、併せて学校全体としても組織的に取り組むことにもつながり、とても良い取り組みと思います。

◎通信制の課程について

課題に対して、先生方がより主体的に取り組めるよう、新たに委員会を立ち上げるなど、着々と取り組んでいるという印象を受けます。その取り組みを通して、人材育成も図られると思います。一方、様々な取組みで業務の種類や量が増えているのではないかと思います。業務の整理や、効率化も検討が必要なのではないかと思います。

【山口委員】

(通信制)

多くの人の学び直しの学校として機能しており、今後も果たす役割は大きいことと思います。コロナ禍に強い形態の学校ではありますが、ICT 環境が追い付いていないと成果が出にくいので、環境整備と教職員の ICT 活用スキル向上に努めていただければと思います。卒業率を上げていくために、高い目標を立てて臨んでいることがわかりますので、引き続きよろしくをお願いします。

(定時制1・2部)

再編に向けた過渡期の運営の難しさがありますが、一人ひとりを気にかけて学校運営をしていただいていることが強化方針からもわかります。家庭・福祉支援の必要な生徒も多いことが想定されますので、「生徒自身が行政等の支援につながる基礎知識」をご指導いただくと助かります。区も協力いたしますので、お声掛けください。

(夜間3部)

わかる授業、キャリア教育、個別の生徒支援の充実と着実に前進している様子が伝わります。夜間定時制に限らずどこの高校でも困難を抱える生徒が多い学校での「チーム学校」のモデルとなりえる取り組みだと思えます。一人一人の人生に、前向きな影響を及ぼす成果を期待しています。

(2)「令和4年度使用教科用図書選定理由書」(各課程・各部)について

【安東委員】

特に意見なし

【大西委員】

適正に選定していただいている。

【加藤委員】

特にございません。

【篠崎委員】

・入学者の年齢が10代が多く、通信制ということに、生徒が教科理解できるのか。

《伊藤准校長》

・入学者の年齢層は10代が中心です。中学時代不登校だった生徒も多く、ご指摘のとおり基礎学力に課題があります。そこで、本校の教育課程には「入門」を冠した科目(「英語Ⅰ 入門」「数学Ⅰ 入門」など)を設定して、基礎学力を補ってから、高校の必修教科目を受講できるようにしています。教科の理解力については個人差が大きいため、本校としてはできるだけ個別の対応をして単位を修得させたい、と奮闘しているところです。

・生徒の中には、年配の人もあるので、若い人との間で、公正な判断と、基本的人権の配慮をお願いします。

・ I ・ II、 III、 通信と三部ありますが、教科書は各違うのですか！！

《大西校長》

それぞれ実情に応じた教科書を選定しているため、各部・課程で教科書は違います。

【梅田委員】

特にありません。

【山口委員】

特に意見はありません。

(3) その他ご意見、ご要望

【大西委員】

特にありません。

【加藤委員】

丁寧なとり組に、子どもたちにとっては教育の再チャンス、大人にとっても教育を受ける権利を全うする意味で重要な所です。学生さんのニーズや声をさらに、とり上げていただきたいと願います。コロナ禍の中、ご自愛下さいませ。

【篠崎委員】

通信制

・クラブの件、生徒数1800名、クラブ員104名、少ないと思う。クラブ活動が十分行われているのか。5～6名で活動できますか？クラブの教室はあるのですか？

《伊藤准校長》

確かに部活動に参加する生徒は少ないです。5～6名で活動できますか、とのお尋ねですが、5～6名も参加していると「多いな」と感じるほどです。しかし、たとえ少数でも参加している生徒は楽しそうで、クラブが学校の居場所となっているのを感じます。

クラブ専用の教室や部室のようなものではありません。3つの学校が同じ校舎を使っていますので、部活動の曜日や時間帯も限られています。そんな中、この夏は卓球部の生徒が1名「全国定時制通信制大会」(奈良県)に参加し全国で3位という快挙を成し遂げました。ちなみに、彼女には二人のお子さんがおられます。ソフトボール部の2名は、定時制との軟式野球の合同チームに入れてもらい「全国定時制通信制大会」(東京都)に参加しました。

本校には生徒協議会という生徒の組織があり、今年度はクラブ紹介冊子を作成し、クラブ活性化のため取り組んでいます。昨年度は、コロナ禍で文化祭や体育祭といった学校行事がなかったため、特別活動は紙上での実施となりました。その集大成としてビンゴ大会を開催したところ、予想以上に多くの生徒が参加してくれました。通信制とは言え、学校行事を楽しみにしている生徒が多数いることを励みに、行事の充実に取り組んでいきたい、と思います。

Ⅲ部

・体育祭 18:00～生徒の集まりはどうか。玉入れ、綱引きは楽しそうですか。

《中濱准校長》

・生徒の集まり(出席人数の割合)は在籍数の約6割前後で推移しています。競技の順番は参加生徒数が少ない順にする等、スムーズな進行ができるような工夫も併せて行っています。玉入れ・つなひきは毎年競技に入っていますが、生徒たちは楽しそうに取り組んでいます。特につなひきは、コロナ対策で人数を削減して実施しましたが応援席からたくさんの声援が飛び、最後まで大盛り上がりでした。

I・II部

・卒業する生徒、いまいる生徒は閉校についてどのように思っているのかな？

《大西校長》

残り2年間で卒業できるように、単位修得に頑張っています。

【梅田委員】

コロナ禍で、これまで実施してきた教育活動が制限される中、生徒たちが充実した学校生活を過ごせ、そして自己実現が図れるよう、引き続き環境づくりをお願いします。

6. 学校運営協議会 会長・副会長について

昨年度に引き続き、会長は梅田和子委員、副会長は大西啓嗣委員に決定をしました。

7. 次回の会議日程

令和3年11月24日(水) 15:00より